囲碁の魅力

札幌市医師会
KKR札幌医療センター
武田　圭佐

囲碁世界最強と言われていた中国の柯潔九段が、アルファ碁(AI)に３連敗を喫して間もなく２年になる。将棋の世界では2015年にはすでにAIが人間よりも強くなり、現在では囲碁・将棋いずれの世界でも、AIの着手を参考にして最善手を検討するのが一般的になっている。このように人間はAIに勝てなくなったが、将棋界では昨年、中学生だった藤井聡太がプロデビュー後29連勝し、若きスターの出現で将棋ブームが到来した。AIに勝てなくても将棋の人気が落ちることはなかったわけだ。一方、囲碁の世界でも若手が活躍しているが、残念ながら囲碁人口は減ってきている。それでも、私は囲碁が最高のボードゲームであると信じており、その魅力に触れてみたい。

囲碁の歴史

囲碁は、1990年代まで日本が世界最強であった。これは、徳川家康が囲碁・将棋の保護に努め、その上手に俸禄を支給したことに起因していると考えられる。徳川家康は織田信長や豊臣秀吉らとともに囲碁を愛好した。そして、戦（いくさ）がなくなり太平の世になった江戸時代に、別の形で勝負をつけることを人々は求め、家康はそれを盤上に求めたのではないかと私は考えている。それが囲碁・将棋の保護につながった。名人碁所（ごどころ）は徳川幕府の役職の一つであり、御前で御城碁（おしろご）を披露した。囲碁家元である本因坊家、井上家、安井家、林家の４家から碁所１名が選ばれた。このため、これら４家は覇権を争い、競い合った。囲碁はプロ化し、各家元は囲碁の強い者を集めて研究した。そして勝つための技術が発展した。これは将棋界も同様である。徳川幕府が崩壊した明治以降、囲碁家元制度もなくなって囲碁は衰退しかけたが、やがて新聞棋戦として囲碁･将棋は注目されるようになった。世襲制最後の名人であった本因坊秀哉は川端康成の小説のモデルにもなった。それ以降も囲碁棋士は専門職として存続したわけである。また、昭和のころの政治家はほとんどが囲碁を打った。囲碁の駆け引きが政治のそれに通じるところがあると考えられ、政治家にとって囲碁を打つことは、山岡荘八の“徳川家康”や宮本武蔵の“五輪書”を読むこととともに必定のことと考えられていた。しかし、平成に入り囲碁人口が減ってきた日本は、天才･李昌鎬（イ･チャンホ）を生み出した韓国に勝てなくなる。韓国では、囲碁は頭をよくするといわれ、子供たちは学習塾に通うと同時に囲碁塾に通った。囲碁人口は増え、囲碁界全体のレベルの底上げにつながった。最近では、過酷な中国棋院で生き残った中国の若者たちの実力が、韓国の実力者をしのぐようになってきている。そんな中、昨年名人位を失ったものの、日本囲碁界のタイトル全七冠を長く保持し、羽生善治とともに国民栄誉賞を受賞した井山裕太は、残念ながら世界囲碁棋士レーティングで10位にも入っていない。

囲碁と将棋

私は子供のころ囲碁と将棋のルールを父から教わったが、囲碁は難しすぎて面白さが分からず、最初は将棋に夢中になった。将棋は、相手の王様を取れば勝ちになる比較的単純明快なゲームだ。一方、囲碁は相手の石を殺して取ってしまうことがあるが、最後の勝負は取った地(じ)の大きさで決まる。要は陣取り合戦だが、盤面が広いため効率よく陣地を取る方法が分かりづらい。また、将棋は相手の王様を詰ますために、飛車角を成り捨てたり、ただで打ち捨てたりという派手な手が出ることがあり、迫力があって面白い。将棋の妙手は、あっと驚く捨て駒など、凡人には気付きづらいが、その手の素晴らしさが非常に分かりやすいものが多い。これに比べて、囲碁の妙手はなかなかそのすごさが分からないことが多い。解説を聞いてもどこがそれほど素晴らしいのか理解できないこともある。こういった深遠な部分が、囲碁をとっつきにくいものにしているが、魅力的な部分でもある。また､囲碁には独特の“相場”という考え方がある。将棋でも攻めと守りのバランス感覚はあるが、少し違う。囲碁では互いに一手ずつ打ち合うので、自分だけが全ての地を取ることは不可能であり、相手にも地を与えつつ得をしていくという考え方が必要になる。お互いにほぼ五分五分に地を取り合うことが、いわゆる“相場”である。すべての場所で得をしようとすると、破綻してしまい結果的に大損することがある｡相手にも地を与え、ほぼ対等に地を稼ぎつつ（相場を維持しつつ）、最終的に自分がより多くの地を取ることができれば勝ちである。外交に似て、相手の要求を聞いてある程度の満足をしてもらいながら、自分の要求も通して結果的には自分の国の利益につながるようにする。これが囲碁の極意であり、政治とつながる部分であろう。相手が無理を言ってきたら、石を殺して取ってしまうことで勝利することもある。相手が無理を言ってきているのに対応を誤って自分の石が死んで（取られて）しまうこともある。相手の無理な要求やごり押しに屈しないためには、実力をつける必要がある。囲碁をやっていると、“隣国のごり押しに屈しないだけの軍事力は必要なのだろうな”と考えさせられたりするわけである。そういう、場面に応じた適応力が必要なところが囲碁の難しいところであり、魅力であると私は考えている。